

令和2年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	有限会社プーク人形劇場	
施 設 名	プーク人形劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業	
内 定 額 ( 総 額 )	6,694	(千円)
	公 演 事 業	6,332 (千円)
	人 材 養 成 事 業	362 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	人形劇団プーク×ソフィア人形劇場共同制作 公演「カモメに飛ぶことを教えたドラ猫の物語」	※令和3年度へ事故繰越	※新型コロナウイルス感染症の影響により、 令和3年度へ事故繰越	目標値	920
		—		実績値	—
2	人形劇団プーク公演 子どもの劇場「あやとじろきちおおかみ・ねずみくんのチョッキ」	2020年11月8・14・15・ 21・22・23・28日 2021年3月20・21・25・ 26・27・28・29日	「あやとじろきちおおかみ」 演出：渡辺真知子 「ねずみくんのチョッキ」 演出：岡本和彦  出演：小原美沙・山越美和・佐藤達雄 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、 定員数を削減	目標値	2,040
		プーク人形劇場		実績値	※ 1,502

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## (2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1	子どもと関わる演劇と教育／脚本・演出なんでも講座	2020/7/19～ 2021/1/24	講師：西田豊子、西川古柳、叶雄大、渡辺真知子 講師助手：土井真波、下村界 ※新型コロナの影響で、定員制限	目標値	82
		プーク人形劇場		実績値	※57

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

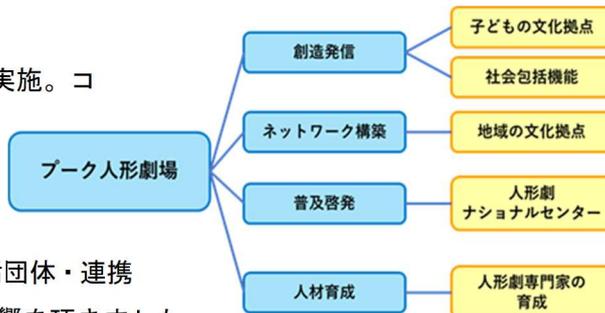
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

#### ＜社会的役割＞

緊急事態宣言の発出に伴い、休業を余儀なくした期間もありますが、下記5つのミッションに基づき事業を展開しました。休業期間中に、公衆衛生上の基盤を整備、万全な感染防止対策を講じました。事業を通じ、社会基盤を支える劇場として一定の成果を上げる事が出来たと自己評価しています。

#### 【①子どものための文化拠点】

劇場休業を余儀なくされた期間以外は、年間通じて事業を実施。コロナにより休日の行き場をなくした家族からは、「プークがあってよかった」との声を頂きました。



#### 【②海外とつながる人形劇のナショナルセンター】

世界各国の劇場が行う感染防止対策の情報を収集、行政・統括団体・連携劇場へ情報を発信しました。また、映像配信は、海外からも反響を頂きました。

#### 【③地域の芸術文化拠点】

コロナ禍の中、実演家の支援を進め、公演・稽古・撮影会場として、芸術活動拠点の役割を務めました。

#### 【④ 社会包摂を目的とした地域連携強化】

普段、全国からの来場者がある劇場ですが、近年、都区内地域との連携に注力してきました。コロナ禍の中でも近隣住民の来場者が多く、一定以上の観客数を確保できました。

#### 【⑤人材育成】公演事業では、出演キャストを次世代の若手を抜擢し、発展的に継承することが出来ました。

人形劇に見られる特性を、保育・教育現場に携わる表現教育者（コミュニケーション演劇）との共有化を進めた。教育現場や、他ジャンルの実演家からの参加が多く、都内唯一の人形劇専門劇場へのニーズの高さが伺えました。

＜事業内容＞事業概要の通り

＜事業実施状況＞【公演事業 No. 1】 緊急事態宣言のため2021年3月へ延期したが、12月の水際対策の強化措置に伴い、招聘外国人の入国が再び困難となり、来年度へ再延期としました【令和3年度へ事故繰越】。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

プーク人形劇場は日本で初の人形劇専門劇場、「子どもの殿堂」として、人形劇の創造・発信を続け、2021年誕生50周年を迎えました。

年間来場者数は、20,000人以上で推移していましたが、本年はコロナウイルスの影響により約半減。【右表：年間来場者数（全国地方別）】

一方、近年地域との連携を再度強化し、広報活動を強化してきたことが功を奏し、近隣の方々の新規来場者や、往年の支援者の再来場に繋がりが、定員制限いっぱいまでの来場者に繋がりました。

また、若手のスタッフと実演家の協力の基、オンライン交流会など様々な新しい取り組みを実施。芸術文化の灯を灯し続ける「芸術文化の砦」として、文化面からの地域貢献ができたこととらえています。

本年度初めて実施した人材育成事業は、これまでにないジャンルの実演家からの参加もあり、活動の幅を広げる事業として高く評価している。

	2019年		2020年	
	来場者(名)	%	来場者(名)	%
北海道	70	0.3%	7	0.1%
東北(北)	33	0.2%	3	0.0%
東北(南)	149	0.7%	12	0.1%
北関東	690	3.2%	120	1.0%
都内	11,426	52.8%	8,783	73.6%
南関東	5,367	24.8%	2,571	21.5%
中部(東海)	619	2.9%	138	1.2%
中部(上信越)	274	1.3%	68	0.6%
関西	304	1.4%	56	0.5%
中国	132	0.6%	12	0.1%
四国	106	0.5%	10	0.1%
九州・沖縄	309	1.4%	128	1.1%
不明・その他	2,149	9.9%	28	0.2%
計	21,628		11,936	

※1月～12月にて集計。

※不明・その他には、外国人を含む

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

今回の事業にあたり、設定した目標と指標、および検証（評価）は以下の通りです。

【公演事業】 《公演事業 No. 1、令和三年度へ繰越》

《公演事業 No. 2》「目標1：動員数の増加」

＜当初目標＞ 24回公演 2040名 入場率80% 《達成度》 24回公演 1502名 入場率 62.58%

コロナウイルス感染症の影響により、当初の目標は達成できませんでした。しかし、感染防止対策のための「定員制限」下においても、主催劇場としてのモチベーションを維持し、質の高い事業を遂行するため、「目標の再設定」を行いました。

【コロナウイルス感染症対策と「定員制限」による、目標の再設定】

《定員制限》11月公演、定員の70% / 2021年3月20・21日は50%（緊急事態宣言下）、3月23日より60%

＜新たな目標数値＞ 24回公演 1240名 入場率51% 《実績値》 24回公演 1502名 入場率62.6%

制限下の定員を100%とした場合の達成率は、96.3%であり、定員制限の限界まで観客を獲得することが出来ました。

「定員制限」は、観客からも「安心して来場できる」との評価を頂きました。

ブーク人形劇場における人形劇団ブーク公演（過去採択事業との比較）

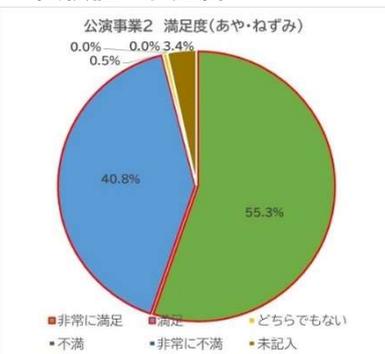
	演目	日数・st数	総入場者	有料	招待	入場率	有料率	アンケート数	回収率	満足度
2017年11月・2018年3月	くまの子ウーフ・がんばれローラー君	20日・28st	2,339	2,135	204	83.5%	76.3%	538	23.0%	85.0%
2018年12月	12の月のたき火	7日・13st	1,222	1,116	106	94.0%	85.8%	269	22.0%	85.0%
2019年1月・3月	もりのへなそうる・ふしぎな箱	20日・20st	1,733	1,579	154	86.7%	79.0%	464	26.8%	87.0%
2019年4～6月・2020年2月	だるまちゃんどてんぐちゃん・くるみ割り人形	19日・28st	2,573	2,337	236	91.9%	83.5%	593	23.0%	86.0%
2019年12月	12の月のたき火	8日・14st	1,289	1,213	76	92.1%	86.6%	291	22.6%	87.6%
2020年11月・2021年3月	あやとじろきちおおかみ・ねずみくんのチョコッキ	14日・24st	1,502	1,420	82	96.3%	91.0%	381	25.4%	96.1%

＜目標2：子どもと大人、両観客層の満足度を高める＞

【指標②観客動向・満足度】～アンケート結果による子どもと大人、両観客層の満足度～

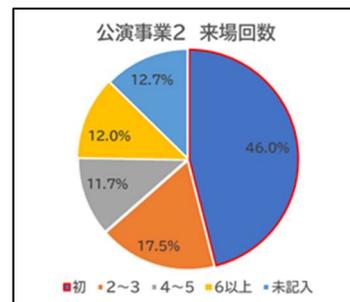
▼「あやとじろきちおおかみ」「ねずみくんのチョコッキ」

《実績値》満足度：96.1% 初来場者：89名(23.4%)



公演事業 No. 2 のアンケートにおける、子どもと大人の満足度は5段階評価で「非常に満足」「満足」が合計で96.1%。新演出による作品の継承することも目的でした。

アンケート結果からも、多くの観客に受け入れられたことが伺えます。



▲《参考》(R1年度同種事業)

「だるまちゃん」「くるみ割り人形」満足度：86.0%

《人材育成事業》本年度初実施 《当初目標》定員96名 参加者82名 《達成度》参加者57名 達成率69%

コロナウイルス感染症の影響で、参加者数は目標を達成できなかったが、比較亭少人数の教室となったことで、参加者と講師間のコミュニケーションが活発になされ、質の高い事業となりました。教育者現場からの参加者の割合が多く、ニーズの高さが伺えました。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 《事業期間》

##### 【公演事業1】《公演事業 No. 1、令和三年度へ繰越》

2018年より、ブルガリアソフィア人形劇場との共同制作公演として、2018年より入念な準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年5月公演を2021年3月へと延期し、さらに変異種による感染再拡大に伴う水際対策の強化措置により、2022年3月へ再延期としました。(令和3年度へ繰越)

##### 【公演事業2】「あやとじろきちおおかみ」「ねずみくんのチョコッキ」

2020年11月と3月 24回公演 計画通り実施。

コロナ禍の中でしたが、予定通り実施できました。近隣の方々からの新規顧客の獲得が多くあり、満足度も前年よりアップしていることから、適切な期間の事業であったと自己評価しています。

##### 【人材育成】

教育者が参加しやすいよう、夏休みや連休を活用した日程を計画し、予定通りに実施しました。コロナ禍の中でも、一定以上の参加者があり、ニーズの高さが伺えました。適切な事業期間であったと評価しています。

#### 《事業費》

【公演①】新型コロナウイルス感染症の影響により、来年へ再延期となりました。日本と欧州では感染状況にもタイムラグがある中の延期調整は、信頼関係を損なわないよう緊密な連絡が必要でした。公演キャンセル費用などが発生せず、年度を超えた繰越のための、適切な事業費の支出だったと評価しています。

【公演②】計画通りの実施でしたが、新型コロナウイルスの影響により、収益率は当初見込んでいた58.5%から、42.1%へと低下。感染防止の観点から、ワークショップとバックステージツアー、そして託児サービスを停止し予算を削減しました。削減した予算を、映像撮影と感染防止対策費用へ充当し、概ね予算通りの執行状況となりました。

【人材育成】コロナ禍の中、参加者数は目標に届きませんでした。教材費等での経費圧縮が行われ、効率化をすすめることが出来ました。

#### ＜全事業を通じて＞ ～新型コロナウイルス感染症への対応と、効率性および有効性

本事業の実施にあたっては、何よりも安心安全な文化施設として利用して頂けることに注力しました。

「プーク人形劇場感染防止ガイドライン」作成、スタッフ・出演者・観客へ周知徹底し、事業前には、全キャスト・スタッフへのPCR検査を実施、徹底した感染防止対策を講じました。(上記の対策には他事業を主に活用)

本事業では、これらの対策を様々な媒体で広報と周知を進めることで、観客の安心感を獲得、一定以上の集客に繋がりました。適切かつ弾力的に予算を執行したことで、効果的な事業展開となったと分析している。

具体例としては、「地域との共同」に注力してきたことにより、近隣の方の新規来場者を獲得、コロナ禍の中でも、定員上限に迫る観客数を維持出来たこと。そして、広報活動に注力し、広報媒体の主体を、紙媒体から、ネットへと移行を進めていたことで、感染対策の周知、オンタイムでの混雑状況のアナウンス、オンライン交流会・映像配信など、「新しい生活様式」に対応した事業展開を、スムーズかつ効率的に行えたと評価しています。

配信動画は、観客の歓声も含めて収録することで、臨場感が溢れ、「コロナ禍の中、生活が単調となる中、子どもたちの歓声から、大人たちも生きる勇気を受け取った。」との好評を頂きました。これまでプーク人形劇場を訪れたことが無い方々からも反響を頂き、映像配信の発信力の強さを実感しました。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### 《劇場から全国へ、上質な人形劇を》

当劇場で行われた公演は全国へ巡回公演を行っています。

本年度公演事業 No.2 の、「あやとじろきちおおかみ」は、2021年6月～2022年5月にかけて、国内48会場での巡回公演へと発展しています(2021年6月現在)。優れた作品を、世代を超えて継承し、全国へ波及する芸術発信劇場の役割の一つを発揮できたと評価しています。

【公演事業2】「あやとじろきちおおかみ」（平成5年度厚生省児童福祉文化省 厚生大臣グランプリ受賞）



#### 《地域に根付いた劇場》

当劇場は、今年劇場誕生50周年を迎えました。本事業を通じて、一般の方はもちろん、演劇・教育関係者、新進芸術家や芸能人、絵本作家など、全国の文化人とも連携が広がっています。人形劇専門劇場として、50年の歴史と実績から、全国はもちろん世界各国の人形劇関係者との連携が、コロナ禍の中でも加速しています。オンラインを活用することで、その距離は逆に縮まったと感じる事もあります。

渋谷・新宿区内からは、「オンリーワンのプーク人形劇場がある事が地域の特色」と、様々な事業への参画を求められています。地域・全国・世界より、歴史と創造性の高い人形劇場として、様々な大きな期待を頂いていることを実感しています。

#### 《他ジャンル芸術家との交流》

「人形劇」の特色を、「人間劇」へ活用することを模索して、人形劇以外の実演家からの注目が高まっています。実際に、当事業に参加した実演家によって、人形や人形劇手法を用いた様々な作品が生まれています。

また、他ジャンルの演劇ユニット・表現グループの主宰者自らが、当劇場の年間スタッフとして活動をはじめ、その輪が広がっています。様々なジャンルの実演家加わることは、劇場活動に多様性が加わり、地域からの多種多様な要請に応える確実な力となっています。今後もこのような希望に応えていきたいと思っております。

#### 《マスコミへの露出》

事業を通じ、マスコミの取材を複数受けました。

テレビ朝日「スパークチャンネル」～コロナ禍の中の芸術活動～2020年10月31日放映

日本テレビ「ヒルナンデス」～裏道さんぽ～2021年3月3日放映

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### 《公演事業～俳優育成と作品の次世代継承》

優れた作品を発展的に継承することは、現代演劇にとっても課題となっています。この課題を克服するため、【公演事業 No. 2】では比較的長い上演期間を設定し、若手俳優を精力的に抜擢し、俳優養成の機会を作りました。アンケート結果や、巡回公演の予約数からも、作品のクオリティが向上し、事業成果も一定以上の成果があったと評価している。

### 《人材育成事業～教育機関との連携》

教育系大学幼児初等教育科の授業の一環として、申し込みを例年受け入れています。また、小学校でのWS ファシリテーターの要請など、教育現場からも様々な相談を受けていました。本年から実施した人材育成事業は、この具体化的、かつ実践的な事業です。WS 講師やスタッフに、人形劇専門家と他ジャンルの実演家を配備することで、多角的なアプローチのできる劇場として、教育現場や人形劇以外の実演家からのニーズに応える事業となっています。



▲人材育成事業の様子▲

### 《全国への波及》

『人形劇場ネットワーク』を発足し、全国に良質な人形劇を鑑賞するためのネットワークに尽力しています。連携劇場の数は拡大し、全国巡回公演への推進力になっています。また、国際交流活動の実績は、劇場間ネットワーク構築の大きな力になっていて、年々参加劇場の数も増加しています。（詳細は次ページ）

### 《世界への発信》

劇場開設以来続けている国際交流活動の実績数は、24 カ国・55 劇団に及びます。コロナ禍の中、公演事業 No. 1 の来年度への延期のように、直接的な交流活動は出来ないながらも、配信映像へは海外からも多くの反響を頂いています。今後の国際ネットワークの展開に期待しています。

また、来年度へ繰越をした「公演事業 No. 1」は、日本とブルガリアの国際共同制作公演ですが、アフターコロナを見越し、アメリカとスペインでの公演計画が持ち上がっています。今後の発展に大いに期待しています。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

各事業終了後には、関係者・団体と報告会を開き、実施状況と成果、改善点を検討しています。報告会の成果は、次年度の活動計画に活用しています。

また、プーク人形劇場、劇団プーク、スタジオ・ノーヴァ3社による株主総会「人形劇団プーク 統一総会」を年3回開き、活動方針・活動報告・予算・決算・新役員を討議・選定しています。これら討議の下、各事業計画と実施状況をそれぞれ検証し、各事業の一層の発展を進めています。

#### 《雇用の推移と人材育成》

在籍年数の長い経験あるスタッフの高齢化が進み、若手スタッフの獲得・人材育成が課題となっていました。2016年に、5か年計画の雇用計画目標を設定、2021年、目標通りに新規人材を獲得することが出来ました。

(左表参照)

	雇用量の推移						2021年4月1日時点	
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	新規雇用
2014年	0	1	1	0	4	0	6	-
2016年	1	0	2	0	4	0	7	1
2018年	1	1	2	0	3	1	8	1
2019年	1	2	3	0	3	1	10	2
2020年	1	3	2	0	2	2	10	1
2021年	2	3	1	1	2	2	11	1

経営・事業運営面において、次世代への継承が進み改善が見られます。今後も、歴史ある活動を次世代へつないでいく為、ベテランが活躍できるための新しい雇用形態の創出を図り、次世代への継承を一層進めて行くことが求められています。

#### 《プーク友の会 会員数の推移》

現在会員数は468名(新規入会128名/継続者340名)。コロナ禍の中、新規会員の獲得数は減少したものの、継続してくれる会員が多く、結果、前年度比3.7%増となっている。町会・商店会との取り組みや、広報活動の充実した取り組みが、宣伝力の強化につながり、賛助会員の獲得としての成果に現れました。



#### 《全国の劇場音楽堂等ネットワークの構築》

「劇場の持つ社会性と芸術性に重きを置き、各地の劇場・音楽堂との連携を拡げる」(プーク人形劇場活動方針) この方針の下、劇場間ネットワークは拡がりを見せています。令和2年度は新しく参画した劇場は7劇場におよび、人形劇場以外の劇場へも大きく増加しています。

#### 海外特別公演 連携劇場推移

年	都市数	都市名	新規
2016	7	札幌・東かがわ・新宿・飯田・名古屋 神戸・伊豆大島	1
2017	7	札幌・東かがわ・新宿・飯田・名古屋 砂川・三次	2
2018	9	札幌・東かがわ・新宿(3会場)・飯田・名古屋 那覇・宜野座村・佐久・高崎(2会場)	4
2019	6	札幌・東かがわ・新宿・飯田・名古屋 三次	0
2020	14	札幌・東かがわ・新宿(3会場)・飯田・名古屋 知立・大阪・京都・南あわじ・高崎・前橋・藤沢・砂川・旭川	7

#### 《創立50周年を迎える「プーク人形劇場」》

2021年に創立50周年を迎え、プーク人形劇場の歴史的・芸術的価値と役割が一層鮮明となっています。地域に根づく劇場、子どものための文化拠点、地域の実演家の創造拠点であると同時に、国内外へもネットワークを広げていく「人形劇センター」として、公演・人材育成・普及啓発の統括的な事業計画を進めています。